

臨床仏教師養成プログラム

第3期 ワークショップ課程

募集要項

公益財団法人 全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

臨床仏教師養成プログラム

第3期 ワークショップ課程

1. 趣旨

臨床仏教師とは、現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する仏教者のことです。苦しみを抱える方々に寄り添い、そのこころを聴き、こころのケア、精神的なケアそしていのちのケアを提供することが大きな役割となります。

臨床仏教師養成プログラムのワークショップ課程においては、座学課程（公開講座）で学んだ生老病死の「今」を踏まえたうえで、仏教者として社会の現場で活動するにあたり、対人関係の場面を想定したケアの技術の習得を目指します。活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶことで、現場において、相手の、そして自分自身のこころに長く寄り添うことのできるいのちのケアのあり方を理解していきます。

2. 主催

公益財団法人 全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

3. 会場

築地本願寺 聞法ホール（東京都中央区築地3-15-1）

※東京メトロ日比谷線「築地」駅 徒歩1分、東京メトロ有楽町線「新富町」駅 徒歩5分、都営地下鉄浅草線「東銀座」駅 徒歩5分、都営地下鉄大江戸線「築地市場」駅 徒歩5分

4. 受講料

一般 95,000 円／会員・学生 85,000 円

5. 講師

本研究所研究員・専門員・アドバイザー

6. 受講対象

仏教者としての自覚と信仰を持ち、現代社会に生きる人々が抱える苦悩に対し真摯に向き合う意思があり、臨床仏教師養成プログラムの座学課程（公開講座）全10回のうち8回以上の出席を満たしている者。もしくは第2期および第3期の座学課程をそれぞれ5回以上（合計10回以上）出席した者。

7. 応募書類

①座学課程（公開講座）全体を通じた感想レポート（800字程度）

②志望動機：臨床仏教師養成プログラムを受講する理由（800字程度）

③履歴事項書類

※①②については、添付の用紙に手書きで記入、または類似の書式で作成していただいても結構です（パソコン等も可）。

※③は、本要項に付属の用紙に、手書きでご記入ください。

※応募書類については、臨床仏教師養成プログラム以外の目的で利用させていただくことはありません。なお合否結果にかかわらず、応募書類の返却はいたしませんのでご了承ください。

8. 締め切り

封筒表に「臨床仏教師養成プログラム書類在中」と記入のうえ、上記応募書類を3月17日（金）までに事務局にご郵送ください。なお、応募書類については期日必着とし、期日以降のご応募は受け付けません。

9. 選考方法

選考委員会により審査決定します。

10. 結果通知

厳正な審査を経て、応募者には事務局より3月31日（金）までに結果通知書をお届けいたします。合否結果以外の問い合わせ（不採択の理由等）には対応できませんので、その旨ご了承ください。

11. 応募書類提出先

〒104-0045 東京都中央区築地3-7-5 築地A Iビル5階

公益財団法人 全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

以上

ワークショップ課程プログラム（予定）

第1講

仏教カウンセリング・傾聴法

4/25（火）

13:00~17:00

生老病死という現実、釈尊の生きた時代から、逃れられない課題として私たちの前に横たわっています。そこから生じるあらゆる「苦」に対して仏教者は、学んだみ教えや修行等の実践をどのように生かしていったらよいのでしょうか。仏教的なケアの手法の一つである「傾聴」について学び、カウンセリングを行うための心構えを理解していきます。

第2講

自己を知る・生と死のプロセスワーク

5/9（火）

13:00~17:00

あなたが大切にしているものは何ですか？そして、こころの重荷となっていることとは——。他者へのケアを目指すには、まずは自分自身のこころの棚卸しが不可欠です。ワークの実施を通じて、失われゆく人生を疑似体験しながらこころの深層を見つめ、ケア対象者の抱える喪失感を知り苦悩に向き合う素地を養っていきます。

第3講

内観法

5/23（火）

13:00~17:00

現場での実践にあたり、仏教者としての自分自身を見つめ直してみましよう。相手の立場になって自身を見つめ、「事実」を省察することで、仏教的なアイデンティティの再構築をはかります。これまでの自分と、これからの自分——両者の橋渡しを行いながら、仏教者として社会に関わる土台作りを行い、実践に生かしていきます。

第4講

苦集滅道（四諦）ワークショップ

6/13（火）

13:00~17:00

釈尊が説かれた四つの聖なる真理、苦諦・集諦・滅諦・道諦。仏教的な視点にたつて社会の現状を見つめることで、人々が苦しむ問題の根源とその構造を可視化し、解決するための糸口をつかみます。さらに、問題解決に向けてどのように日々の実践を続けていくべきか、自分自身に問いかけなおす機会としていただきます。

第5講

インターフェイス・チャプレンシー

6/27（火）

13:00~17:00

社会構造が目まぐるしく変化する昨今、人々の悩みや苦しみの様相も刻々と変化しています。加えて、さまざまな宗教や宗派、人種、生活階層など、異なる宗教や文化を持つ方々をケアする機会も今後一層増えていくことでしょう。本講では仏教者としての「信」の確立を目指しながらも、自己の宗教にとらわれない普遍的な視点でのケアの実践法を学びます。

第6講

いのちのケア&スピリチュアルケア

7/11 (火)

13:00~17:00

かけがえのない人や大切なものを失う時に経験する感情、悲嘆（グリーフ）。私たちは、つらい気持ちを抱える方にどのように関わり、向き合っていくべきなのでしょう。そしてマニュアルのない状況にあつて、宗教者が陥りやすい罠とは——。「答えのない問い」に答え、悲嘆からの回復のプロセスとケアのあり方について学び、実践していきます。

第7講

セルフケア/マインドフル瞑想

7/25 (火)

13:00~17:00

活動を続けるなかで時に感じる無力感や無常感。ままならない状況のなかでは、自分自身を責める場面に遭遇するかもしれません。本講では、燃え尽きてしまわないために、自身への向き合い方を理解していきます。また、マインドフル瞑想を通じて自己を客観的に見つめ、平常心を保ちながらケアにあたる方途を学びます。

第8講

ターミナルケア/チームケア

8/8 (火)

13:00~17:00

終末期の患者さんには、こころの苦痛をできる限り和らげ、尊厳をもつていのちを全うしていただくための働きかけが求められます。宗教離れの進む日本において、こうした患者さんやご家族に対してチームとしてのいのちのケアを行うためには、どのような点に留意する必要があるのでしょうか。看取りの実践に向けた具体的な心構えとスキルを学びます。

第9講

コミュニケーション・トレーニング& ロールプレイング①

8/22 (火)

13:00~17:00

あらゆる場面で交わされる言葉や身振り、表情でのコンタクト——。そのなかから相手の真意を汲み取り、自らも意思伝えるために必要なコミュニケーションの技法を理解していきます。また、これまでの講座内容で得た知識と経験をもとに、現場での実際のやり取りを想定した研修を、参加者同士によるロールプレイ（役割演技）形式で行っていきます。

第10講

トラウマケア&ロールプレイング②

9/12 (火)

13:00~17:00

いじめや虐待、自然災害など、さまざまな要因によって引き起こされるトラウマ（心的外傷）についての理解を深め、トラウマを抱えた方へのケアの要点を学びます。そして前講に続き、参加者同士によるロールプレイの実施を通じて、自身の発した言葉や行動を具体的に振り返り、現場において同様の場面に遭遇した場合の適応能力を高めていきます。